

# 北海道農業の地域別特色

北海道は土地面積が大きく、気象や立地条件が地域によって異なることから、それぞれの地域において特色ある農業が展開されています。

## 道央地帯 空知・石狩・胆振・日高・上川・留萌

本道の中央部から日本海に注ぐ石狩川水系に沿った上川盆地や石狩平野では、豊富な水資源と比較的温暖な夏期の気候を利用して、稲作の中核地帯を形成しています。また、札幌近郊・空知南部・上川では道外移出向けを中心とした野菜の生産が盛んなほか、日高や胆振の軽種馬、上川・胆振の肉用牛など、地域の特色を生かした農業が行われています。

道央地帯の農業生産額 (R2)



■経営規模等 (R2)

	空知	石狩	上川	留萌	胆振	日高
1 農業経営体あたり経営耕地面積 ha	17.7	16.0	20.4	32.1	16.5	19.2
1 戸あたり乳用牛飼養頭数 頭	77.3	122.9	117.8	103.1	89.1	68.8
1 戸あたり肉用牛飼養頭数 頭	144.4	52.7	241.0	154.0	132.2	68.2

## 道南地帯 後志・渡島・檜山

渡島半島と羊蹄山麓からなるこの地域は、平坦部が少ないため経営規模は小さいですが、道内では最も温暖な気候に恵まれ、集約的な農業が行われています。米が各地で生産されているほか、函館近郊では施設野菜園地が形成されており、後志の羊蹄山麓は畑作地帯、後志北部は果樹地帯として発展しています。

道南地帯の農業生産額 (R2)



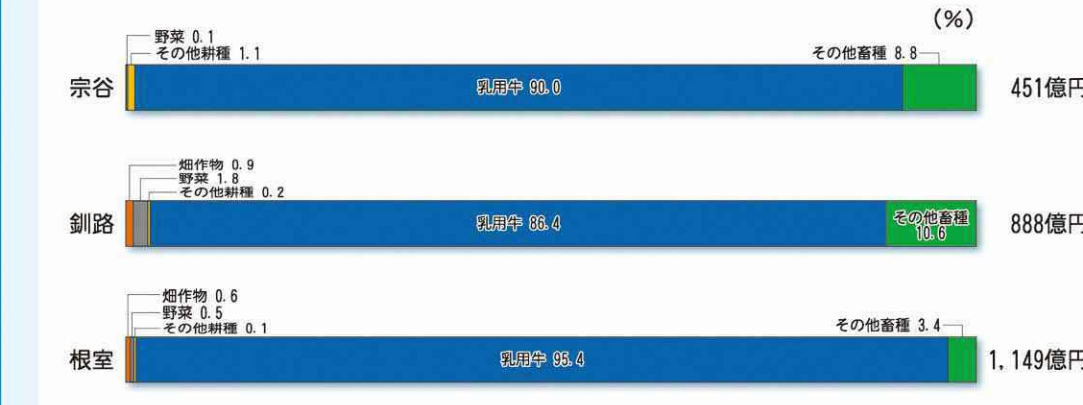
■経営規模等 (R2)

	後志	渡島	檜山
1 農業経営体あたり経営耕地面積 ha	12.4	13.5	16.3
1 戸あたり乳用牛飼養頭数 頭	75.0	92.2	58.3
1 戸あたり肉用牛飼養頭数 頭	60.7	205.6	67.3

## 道東(酪農)・道北地帯 宗谷・釧路・根室

根釧、天北を中心とするこの地域は、広大な丘陵と湿原を含む平坦地が大半を占めています。泥炭地などの特殊土壌が多く、気候が冷涼であることから、草地が中心となっており、EU諸国の水準に匹敵する大規模な酪農経営が展開されています。

道東(酪農)・道北地帯の農業生産額 (R2)



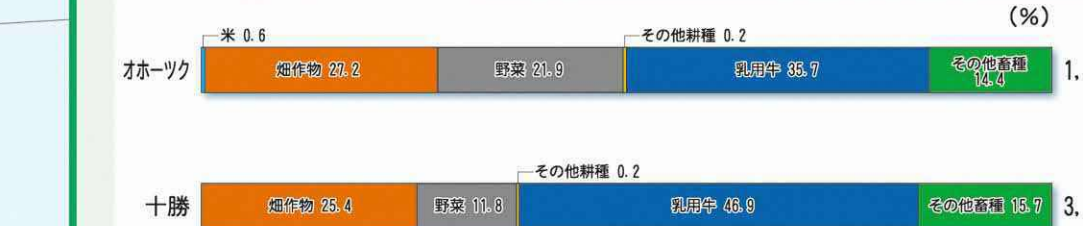
■経営規模等 (R2)

	宗谷	釧路	根室
1 農業経営体あたり経営耕地面積 ha	90.4	81.4	83.7
1 戸あたり乳用牛飼養頭数 頭	111.9	155.2	155.6
1 戸あたり肉用牛飼養頭数 頭	91.8	135.2	33.5

## 道東(畑作)地帯 オホーツク・十勝

十勝平野、北見、斜線を中心とするこの地域は、広大な農地を活かして、大規模な畑作経営が行われており、麦類、豆類、てん菜、馬鈴しょを中心とした我が国の代表的な畑作地帯となっています。また、北見を中心とするたねまきは、我が国最大の産地として道外に大量に出荷されています。

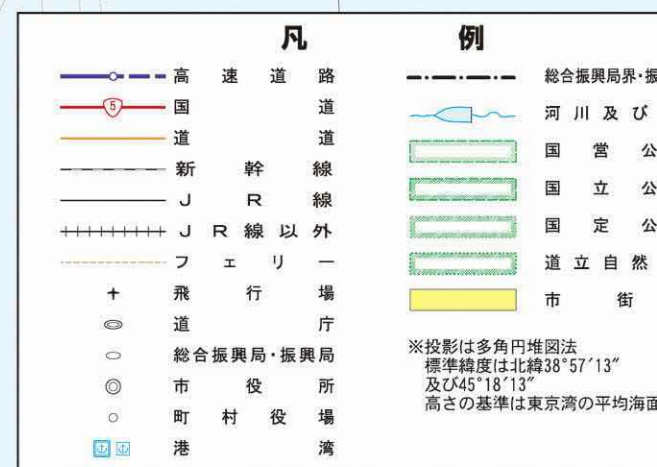
道東(畑作)地帯の農業生産額 (R2)



■経営規模等 (R2)

	オホーツク	十勝
1 農業経営体あたり経営耕地面積 ha	38.3	45.7
1 戸あたり乳用牛飼養頭数 頭	144.3	195.3
1 戸あたり肉用牛飼養頭数 頭	194.8	294.5

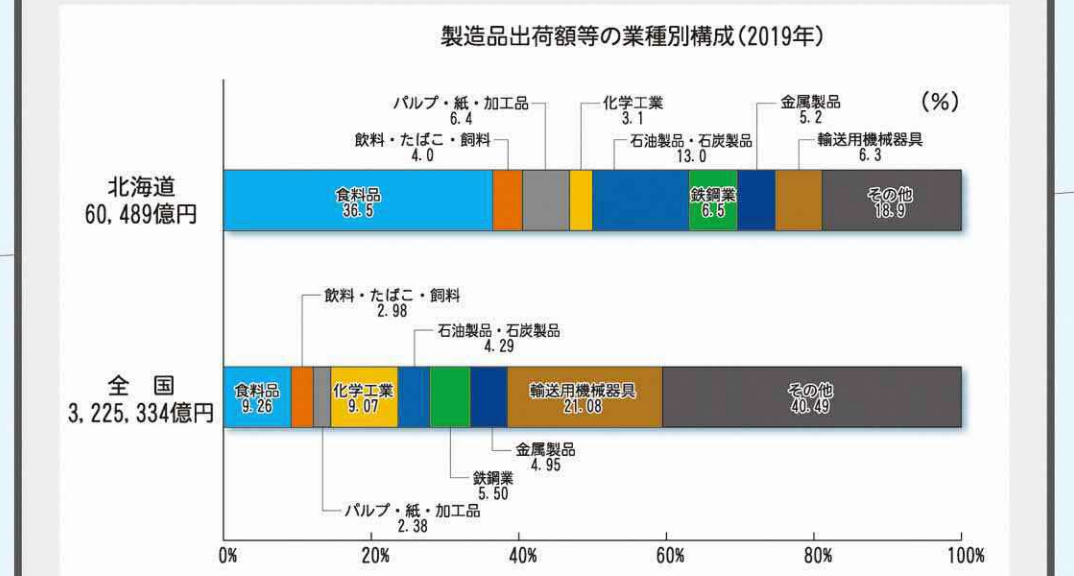
資料：農業産出額 北海道農政課調べ  
製造品出荷額 経済センサス-活動調査(総務省)



1 : 800,000 (1cm=1.25km)

## 地域と所得を支える農業・農村

本道の農業・農村は、農産物を原料とする食品加工、流通・販売、観光など広範な産業と密接に結び付いており、特に食品工業(「食料品」及び「飲料・たばこ・飼料」)においては、道内の産業別製造品出荷額の4割以上を占め、雇用と所得の確保など道民の生活や地域経済を支える基幹産業として、本道経済の中で重要な役割を果たしています。



## 北海道農業・農村の姿2022

北海道農政課

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目  
TEL: 011-204-5376 FAX: 011-232-4126

